

令和3年度 中区自立支援協議会活動報告

1. 共通テーマにおける取り組み

共通テーマを絡め「連携のあり方を考えよう～福祉の垣根を越えて～複合的な課題を抱える家族への包括的な支援～」と区のテーマを決定した。

《全体会議》

- ・5月共通テーマに関してそれぞれの機関で感じている児童の課題や協議会での取り組みについて意見集約を行った。
- ・9月子ども相談所・家庭児童相談室の役割について、要保護児童対策地域協議会について担当機関より講義していただき、部会委員にもオープンで開催した。児童虐待の対応や区の現状も知る機会となった。

《指定相談事業所交流部会》

- ・勉強会Gでは共通テーマに絡め、年間を通して連続的に取り組み計画を立てた。
- ・児童を取り巻く架空事例（複合世帯事例）を作成し、その中で課題と感ずることや深めたいこと等を協議した。障害児相談を行っている事業所もそうでない事業所も事例検討の中で、それぞれの視点で課題と感ずることも出し合った。キーワードとして（複合的・連携・抱えこみ・役割分担・多職種協働）などが挙げられた。児童の支援機関との役割分担や業務が分かりにくいなどの意見については、全体会議の取り組みで一定解決が図れた。
- ・10月子ども食堂ひみつ基地の代表佐藤氏、ほわほわの会宮崎氏をゲストスピーカーに招き、「子ども×地域×大人」をテーマにオープン研修を行った。子育てを地域で支える視点、インフォーマルの社会資源・地域資源の活用など、理論と実践について講義いただき学ぶ機会となった。地域の放課後等デイサービスの職員も多くご参加頂いた。福祉サービスや制度では解決できない問題も多いが、フォーマルで関わる部分はごく一部であること、インフォーマルの関わりが大きく、地域で親育てや子育てをしていく必要性を改めて認識する機会にもなった。
- ・12月は障害者基幹相談の事例を発表し、福祉サービスにのらない事例や複合世帯の連携課題、ライフステージを見越した支援を通して、地域の支援者へ繋げていった事例を共有した。
- ・2月は指定相談から複合的な児童の実事例を提供して貰い、現状や課題を共有。勉強会グループでの取り組みと照らし合わせた振り返りを行った。

2. 中区独自の取り組み

- つぶやき（課題）の収集・・・つぶやきシートでの課題収集。シート記入に限らず、各部会や協議会の中での発言や困り事、要望から協議が必要なこと等、運営会議で確認し整理を行う。

《指定相談交流部会》昨年度に引き続き参加者を分散させるため、2つのワーキングG「勉強会グループ」「情報・発掘グループ」に分かれて隔月開催。

- ・情報発掘グループでは、様々な情報をテーマに取り組みや情報・意見交換を行ってきた。新型コロナウイルスや報酬改定の内容について、日中活動の情報聞き取りシートの作成・共生型施設の情報を知る等の取り組みを行った。

《作業所交流部会》

- ・ナカ・ナカマ♡ネットワーク（中区内作業所のパネル展示・自主製品の展示販売）開催。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、今年度販売は注文販売という形を取った。授産活動の周知や販促も昨年度の課題にあがっていた為、中区役所内でテレビモニターを活用した啓発活動、地域への発信を行い、地域から授産品の問い合わせや注文につながるなど効果もみられた。「なかくの当事者部会」は2月に開催予定も中止となった。

《全体会議》

- ・12月には「障害者虐待について」をテーマに虐待防止担当から講義頂き、部会にもオープン開催とした。